

令和3年度 学校評価結果概要

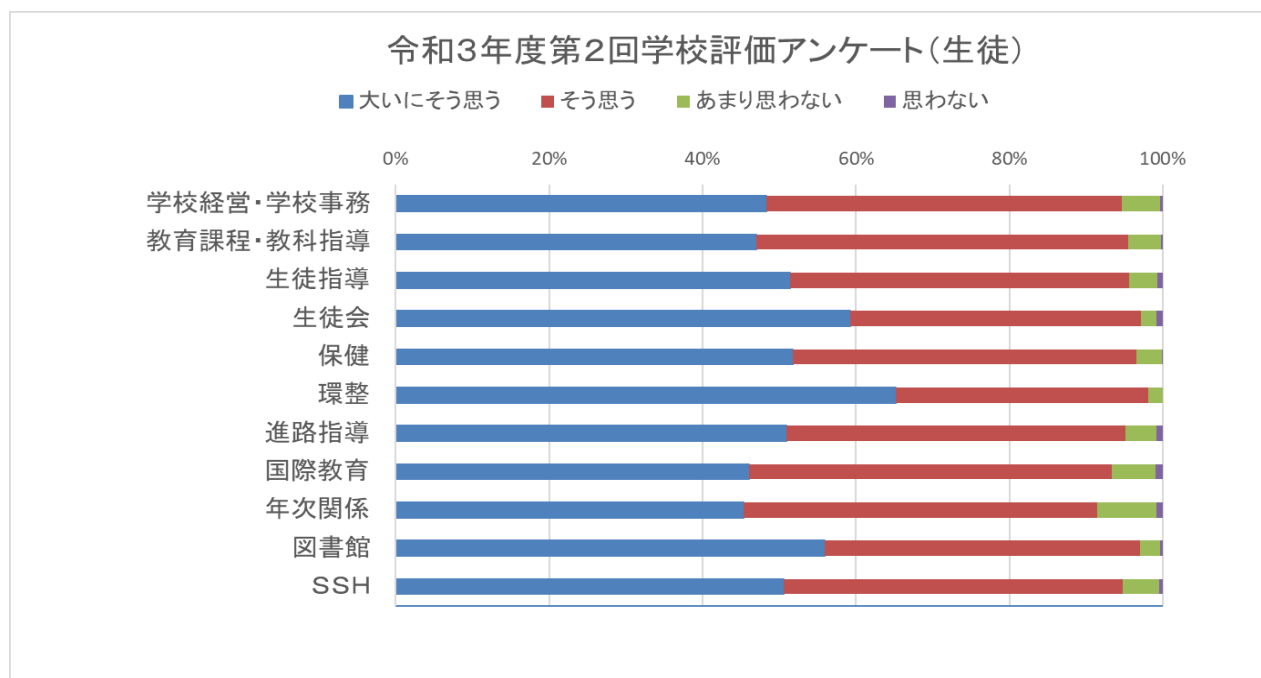
1 学校評価の方法

- 時期 令和3年8月（第1回）及び12月（第2回）
- 評価者 生徒、教職員及び保護者
- 方法 学校改善・点検シートにより達成度を4段階で評価する。

2 第2回学校評価結果（令和3年12月実施）

（1）生徒アンケート結果の概要について

- 対象生徒数：633名
- 回収者数：629名（回収率：99.4%）
- 質問項目数：18
- 質問項目を評価項目ごと分類・集計した結果は次のとおり。



※調査項目18項目で、肯定的な評価の平均は95.0%（昨年比 +2）

- 否定的な評価が高かった項目（10%以上）今年（昨年比）
 - ・地震や火災などの災害が起こった場合の行動の仕方について
具体的に知らされている。11%（±0）

【考察】

- ・コロナ禍の中、R3年度は感染対策を講じて工夫しながら教育活動を実施できたため、R2年度よりも評価が肯定的である。R2年度も否定的な評価が高かった災害が起こった場合の行動についての周知は、密を回避するため防災避難訓練に伴う避難行動は1回（他に机上訓練）に留まっていることが要因と考えられる。R2年度否定的な評価の高かった「SSHの取り組みが学校の活性化に活かされている」などのSSH関連の評価は肯定的になっている。学校全体で取り組む課題研究や地域との連携、広報活動の成果が

表れていると考えられる。

国際教育については、姉妹校である KLB 校と YouTube による交流をはじめ、ブリテッシュ・ヒルズ語学研修等、様々な工夫を凝らして教育活動を行ったことにより肯定的な評価が高まったと考えられる。

○昨年度に比べて肯定的な評価が高かった項目（昨年比+10%）

- ・図書館がHR活動や授業、また個人で利用しやすいよう整備されている。 97% (+1)

【考察】

- ・司書の様々な取り組みや工夫によるところが大きい。読書への誘い、親しみやすく来館しやすい図書室の雰囲気づくりが高い評価に繋がっていると考えられる。図書館だよりも司書だけでなく教職員の紹介した本を加えて、図書貸出冊数も増加している。

○生徒自己評価において否定的な評価が高かった項目（20%以上）

- ・シラバスを活用して履修登録を行っている。 30% (-2)
- ・授業の予習や復習は、しっかりと行っている。 21% (+3)
- ・家庭学習時間は、年次+1時間程度を実行している。 45% (-4)
- ・読書、学習、調査のために図書館を活用している。 47% (+1)

【考察】

- ・履修内容等を記したシラバスを配布し、指導しているが、科目名や先輩からの話等で履修登録している現状があるため、年次集会や担任から説明する際に配布する時機を見直して改善していきたい。
- ・学習時間については、昨年度に比べ改善傾向にあるが、本校の教育方針「文武両道」のもと、社会における有為な人材を育成するため、根気強く生徒に伝え続けていきたい。
- ・R2年度、キャリアパスポート（紙媒体に進路学習の振り返りを記録）の影響で、使用頻度が減少したことが影響しているものと思われていた Classi の活用については、各種調査への回答や連絡、進路学習の振り返りツールとして活用はもとより、コロナ禍の連絡ツールとして保護者も含めて活用が高まった。
- ・図書室の活用については、利用しやすく整備されたが、実際に利用している生徒は全体の約半数弱であることから、これらの取り組みを継続し本の楽しさを生徒に発信し続けていきたい。

○昨年度に比べて生徒自己評価において評価が高かった項目（昨年比10%）

- ・授業に積極的に参加している。 93% (+12)
- ・Classi を積極的に活用している。 81% (+10)

【考察】

- ・R3度は、ICTを活用したオンライン授業が大幅に進められた。対面授業と異なり「集中して聞いていなければ聞き返すことがなかなかできない」という生徒の意見もあった。授業に対して今まで以上に集中して積極的に取り組まなければいけないという一面が表れたともいえる。また、Classi は連絡ツールだけでなく個々の学習意欲を膨らませただけでなく個別最適な学習に対しても取り組みやすくなった要因としても考えられる。

(2) 教職員アンケート結果の概要について

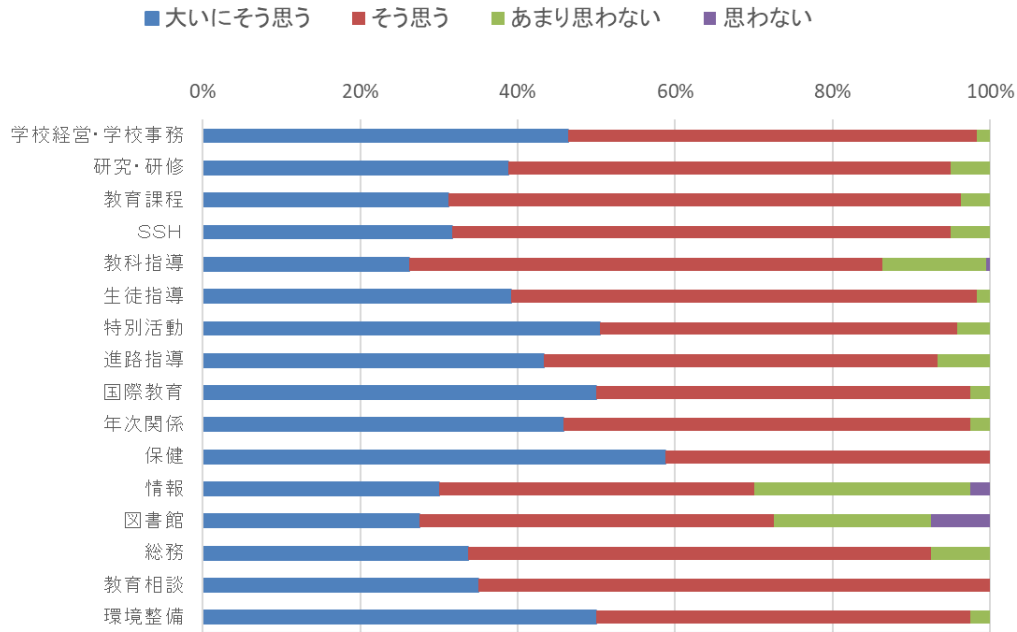
○対象教職員数：44名

○回収者数：40名（回収率90.9%）

○質問項目数：38

○質問項目を評価項目ごと分類・集計した結果は次のとおり。

令和3年度第2回学校評価アンケート(教職員)



※調査項目38項目で、肯定的な評価の平均は94% (昨年比 -0.6)

○否定的な評価が高かった項目 (10%以上)

※ 昨年度に比べて評価が低かった項目 (10%以上)

- ・シラバスを履修ガイダンスの際に効果的に活用している。※ 33% (-11)
- ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を行い、指導と評価の一体化に取り組んでいる。※ 13% (-11)
- ・Classi等の教育情報コンテンツを有効に活用している。※ 31% (-20)
- ・教科指導やHR指導、また個人で図書館を活用している。 28% (+3)

【考察】

- ・シラバスの活用については、各教科ともR4年度に向けて指導と評価の一体化に取り組み、新しい観点による指導計画等を作成している。併用しながら活用している。
- ・Classi等の教育情報コンテンツの有効活用については、R2年度は休校期間に集中的に活用した。まとまった時間を確保して事前に内容の精査、情報共有をして活用していく必要がある。
- ・図書館の活用については、今後も図書室と連携していきながら、生徒の成長を支えていきたい。

○昨年度に比べて評価が高かった項目 (10%)

- ・学校運営に、校長のリーダーシップが発揮されている。 100% (+14)

【考察】

- ・R4年度からの新学習指導要領の本格実施を控え、多様な教育課題の克服のみならず、校長としての方針・理念が示され、人材育成や保護者・地域との連携、丁寧な対応なども周知されていると考える。
- ・R3年度に高い評価であったClassi等の教育情報コンテンツ活用は、コロナ禍の休業期間にオンライン授業や課題の配信等で多くの先生方が利用したことが要因であったが、R3年度においても活用は継続していると考えている。

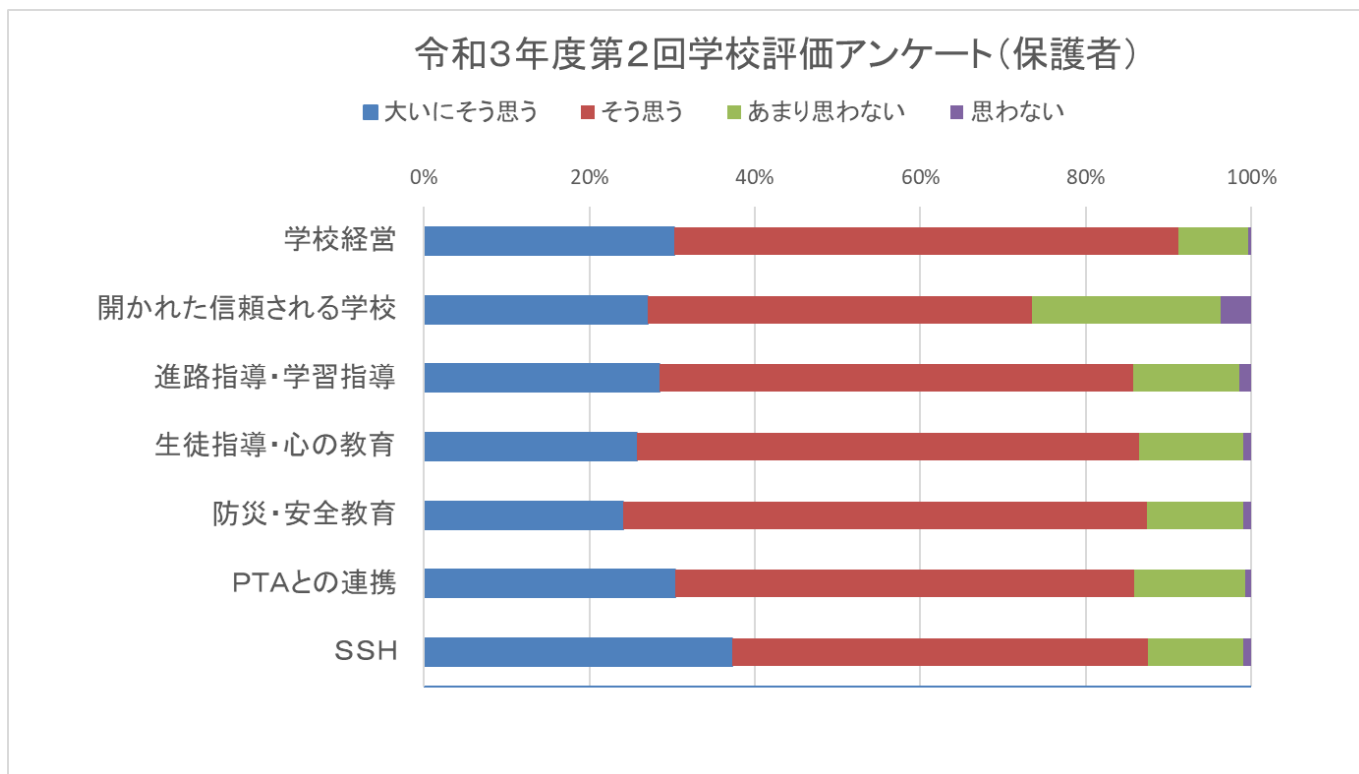
(3) 保護者アンケート結果の概要について

○対象保護者数：633名

○回収者数：397名（回収率62.7%） ※R2.94.2%

○質問項目数：18

○質問項目を評価項目ごと分類・集計した結果は次のとおり。



※調査項目18項目で、肯定的な評価の平均は83.2%（昨年比 +3.6）

○否定的な評価が特に高かった項目（20%以上）

- ・保護者が授業参観をする機会を十分に設けていると思いますか。 44%（-9）
- ・学校からの通知や案内などの配布物は、お手元に届いていますか。 21%（-1）
- ・本校のホームページやブログを定期的に関覧していますか。 39%（+3）

【考察】

- ・R2年度に否定的ならびに「わからない」と回答した割合の高かった「避難防災」「いじめ対応」「ホームページ等の閲覧」の項目について質問内容を答えやすいように変更した。R3年度は、「わからない」が大きく減少し、明確な回答が増加した。しかしながら、より開かれた信頼される学校となるよう次年度以降も質問内容については検討の余地はある。保護者と学校との信頼関係は、教育活動を行っていくうえで最も重要な要因であるため、教職員に働きかけていきたい。
- ・コロナ禍で学園祭や学校説明会の縮小や授業公開等も実施できなかったため、保護者が授業参観する機会もなかったことが原因だと考えられる。
- ・コロナ禍において、保護者に対する情報発信は、Classiを通じて行い、かなり浸透してきているが、配布物やいじめアンケート結果等についても確実に配付、調査できるようにしていく必要がある。ホームページやブログについて、要望や問合せも多く閲覧数は増えている。

3 学校評価考察

生徒、保護者及び教職員の学校改善・点検シート結果より、概ね昨年度に比べて肯定的な評価が得ている。本校の教育活動は、全体としては生徒及び保護者の期待に応えられていると考えられる。学習面においては、授業への意欲や関心が高いことがうかがえるが、その一方で、授業の予習・復習や家庭における目標学習時間の確保ができていない生徒が約45%と課題を残している。家庭学習の時間の確保については、クラス担任、部活動顧問の協力指導・働きかけのもと、ICTの活用、特にClassi等を活用して、学校と家庭が連携して指導に当たる必要があると考えている。学校からの定期考査や模擬試験の結果と学習時間集計などのデータを可視化し、クラス担任からの個別指導や年次における情報共有は図られているので、生徒には学習目標を設定させ、その目標に向けたロードマップ（学習計画）を描かせるような指導が必要となってくる。また、授業の予習・復習を習慣化するなど、学習に対する主体性を育てていく必要もある。本校では、「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づいた授業改善に取り組んでいる。知識伝達型の授業形態から脱却し、「主体的・対話的」活動を取り入れながら「深い学び」を実現することをねらいとするものである。この実践が、生徒が充実感を持っていることがアンケート結果から読み取れる。全教職員が、各教科で「指導と評価の一体化」による研究を深め、新評価基準に基づく学力の向上と新大学入試に向けた実力アップを図ることが必要である。

進路面では、様々な進路情報が提示されていることを97%の生徒が肯定している。その適切に提示された情報等を有効に収集し、積極的に活用しようとする姿勢がある一方で、講演会に積極的に参加したり、オープンキャンパス、進学説明会等へ参加したりすることを通して情報を入手する等、具体的な行動に繋がらない生徒もいる。具体的な行動とは、将来、進路をイメージして学習への動機付けにする等の行動であり、キャリア教育を進める上では大きな課題であると考えられる。

2期目最終年度のSSHについては、全生徒が課題研究に取り組み、自ら課題を発見し主体的に活動することによって、課題解決能力の育成が醸成できていると考える。生徒の自己評価ではあるが、学びに向かう力、探究心、課題解決能力が身に付いたという評価をしている。生徒や保護者から評価を得ているSSHの教育効果を充分実感する段階までできているが道半ばである。3期目に向けて、さらに課題研究の拡大・深化に取り組み、これまでの取組を検証して教育効果の高いものとすると共に、その成果の外部への広報についても今後さらなる努力が必要である。

保護者が教育活動に高い関心を持ち協力的であることは、教育活動を進める上で大きな推進力となるものである。保護者との強固な信頼関係を築くためには、校内の情報を積極的に公開するなど、開かれた学校づくりが欠かせない。学校ではホームページやブログ、年次だより、広報紙等を通して情報を提供している。ブログは、行事だけでなく授業や部活動等、日々の活動を含め情報を発信している。ホームページの閲覧数も増加しているが、アンケートでは保護者が「わからない」を選ぶ保護者もいるので更なる工夫が必要である。また、配布物が保護者の手元に届かないことが指摘されているので注意しなければならない。

教職員については、通常の授業や部活動の指導に加えて、不登校や多様な生徒への対応など負担も大きくなっているため、多忙化の改善を含めメンタルヘルスについて注意しなければならない。数カ月続けて長時間勤務となる教職員もいる。「悩みなどを気軽に相談できる雰囲気」について肯定的な回答が95%であり、多忙化の中にも救いのある状況であるが、年次有給休暇等を取得しやすい環境づくりを含め、引き続き「働き方改革」を進めていく必要がある。

学校運営に対して、校長が強いリーダーシップを発揮して取り組んだため、「文武両道」を基軸とする本校の教育目標・指導重点は保護者や地域にも広く共有され、教職員はその支援を背景に教科指導・生徒指導・進路指導及び部活動指導に熱心に取り組んでいる。この強みを活かしながら、生徒に高い目標を持たせ、それを実現させるために質の高い教育活動を展開していく必要がある。さらに、本校は今後も「地域の知の拠点」として、中学生にとって魅力ある学校であり続けなければならない。特色を活かした教育活動を継続し、地域との信頼関係を揺るぎないものにしていくことが求められている。

4 課題と改善に向けて

(1) 課題

① 生徒

- ・学習習慣の定着と学習時間（家庭学習時間）の確保
（主体的かつ計画的な学習への取組）
- ・キャリア教育への意識付けと充実（キャリアパスポートの活用）
- ・ICTの有効活用（Classi の活用方法等）
- ・図書室の有効活用

② 教職員

- ・生徒の進路意識の高揚と学習への動機付け
- ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善
（年間指導計画を示し指導と評価の一体化を図る）
- ・SSH全校体制の構築
- ・多忙化改善（長時間勤務解消）とメンタルヘルス
- ・ICTの有効活用（Classi の活用方法等）
- ・図書室の有効活用

③ 保護者

- ・避難・防災計画の周知
- ・ホームページ等を通じた家庭への情報発信の在り方について
- ・配布物等の取扱い
（生徒指導・進路指導、SSH等）

(2) 改善に向けて

① 新学習指導要領に基づく確かな学力、資質・能力の育成

- ・「知識・技能」の習得
- ・課題解決のための「思考力」「判断力」「表現力」の育成
- ・学びに向かう力、人間性等の涵養

② 授業改善、授業力向上、ICT活用への取組

- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づく授業改善
（年間指導計画を示し指導と評価の一体化を図る）
- ・生徒の変容を図る評価の研究
（ルーブリックやポートフォリオなど評価（振り返り）についての研究）
- ・ICT機器を活用方法の研究
（Classi 等の活用）

- ③ 家庭学習時間の確保に向けた取組
 - ・学習と部活動とのバランス及び下校時刻の徹底
 - ・タイムマネジメントを意識させる取組
 - ・課題に対する意識付けと各教科での課題量の調整
 - ・Classi への家庭学習時間記録の徹底

- ④ 進路指導
 - ・SSHと連動した進路意識高揚に向けた指導の実践
 - ・模試データ等の教科、年次、部顧問による情報共有と連動した指導
 - ・入試問題、小論文、面接等の分析と教員への研修
 - ・全校体制による3年次生への進学・就職指導の充実
 - ・保護者対象進路講演会の工夫
 - ・キャリアパスポートを通じたキャリア教育の展開

- ⑤ SSHの取組
 - ・課題研究の充実に向けた全校体制による具体的な取組
 - ・「ちえぶくろシステム」の活用と全校体制の強化
 - ・SSH関連行事の充実と積極的な広報

- ⑥ 生徒会指導
 - ・生徒数減少に応じた部活動体制の構築（削減検討）
 - ・SSH関連行事の充実と積極的な広報
 - ・文武両道を実現する合理的な練習、指導計画の研究
 - ・生徒、保護者、同窓生及び県民の期待に応える成果
 - ・地域のボランティア活動への参加

- ⑦ 信頼される学校
 - ・安心、安全な学校づくり（危機管理）の徹底
 - ・学校と家庭との連携による生徒指導の実践（配布物、いじめアンケート結果等の連絡）
 - ・Classi を通じた学校と家庭との連携

- ⑧ その他
 - ・広報活動の充実による受検生の確保
 - ・学校ホームページ、学校紹介動画、学校パンフレットのさらなる工夫